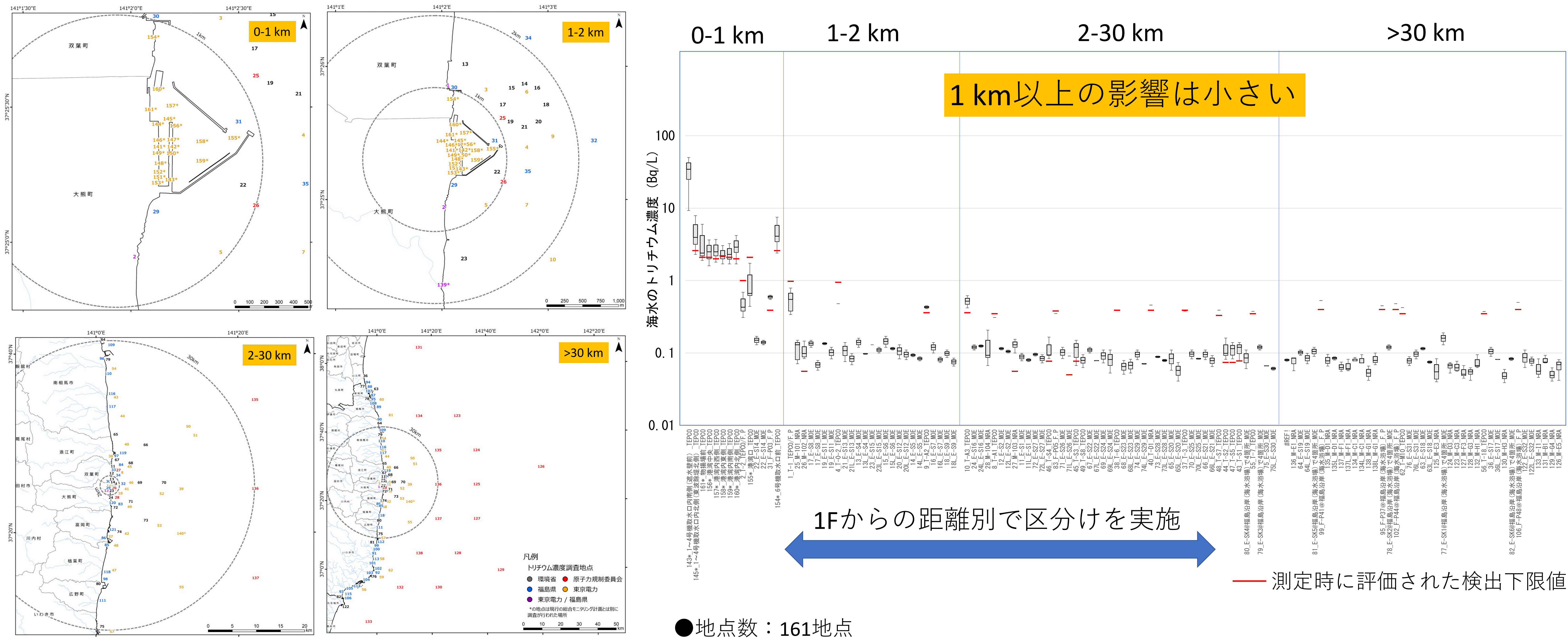


# ALPS処理水の海洋放出に備えた環境モニタリングデータの解析

\*1JAEA \*2NESI ○御園生 敏治\*1、舟木 泰智\*1、尻引 武彦\*1、卜部 嘉\*2、眞田 幸尚\*1

原子力機構では、東京電力福島第一原子力発電所（1F）事故後に開始された、「海域モニタリングの進め方」に沿って取得された、海水・海底土・海生生物の各放射性核種濃度のデータについて、取りまとめを進めています。原子力規制委員会・水産庁・環境省・福島県・東京電力が公開した放射性核種のデータベースを一元化し、各観測地点のトレンドグラフを作成することで、異常値を迅速に報告できるように準備しています。

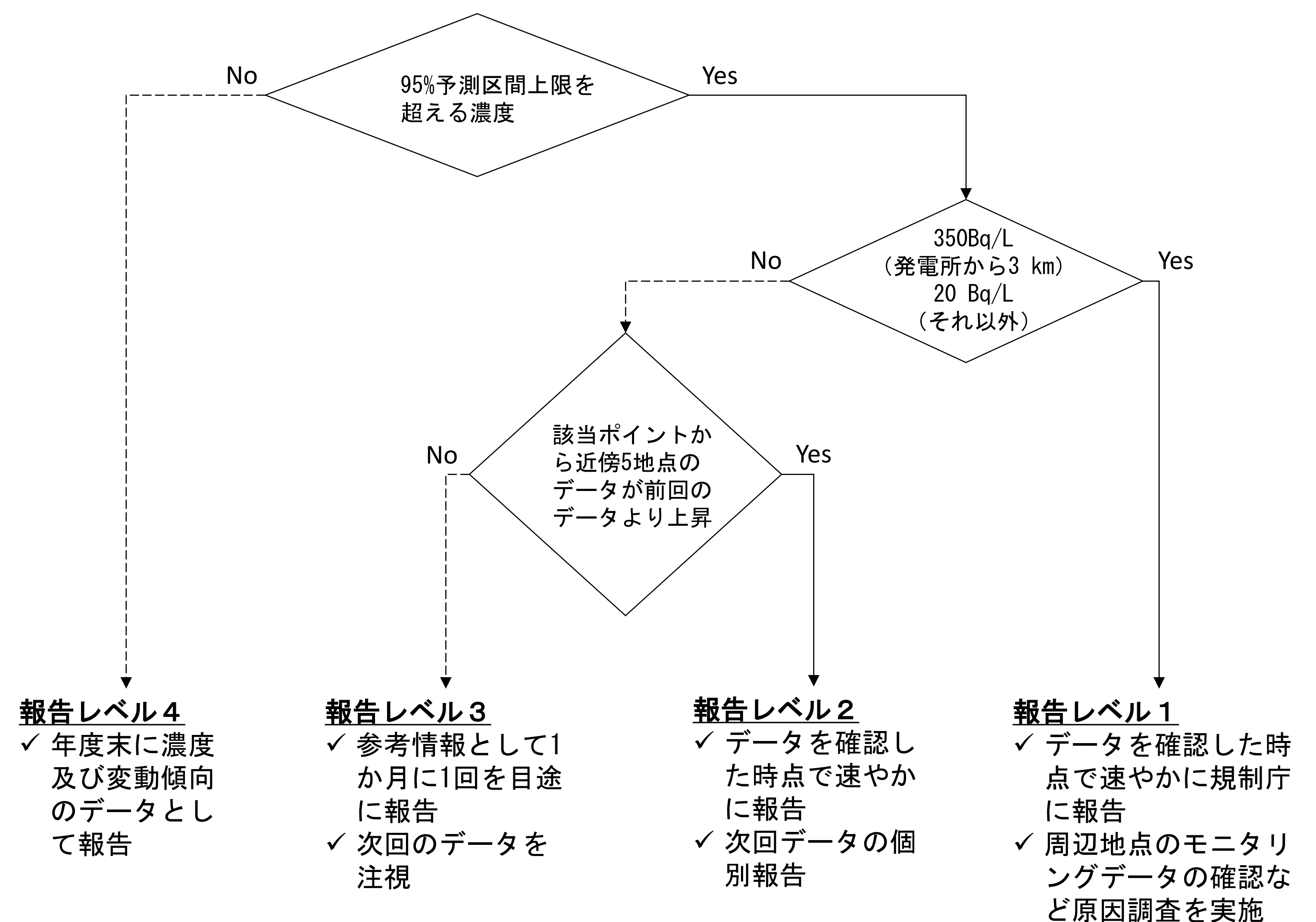
## 1Fからの距離に応じたカテゴリー分け



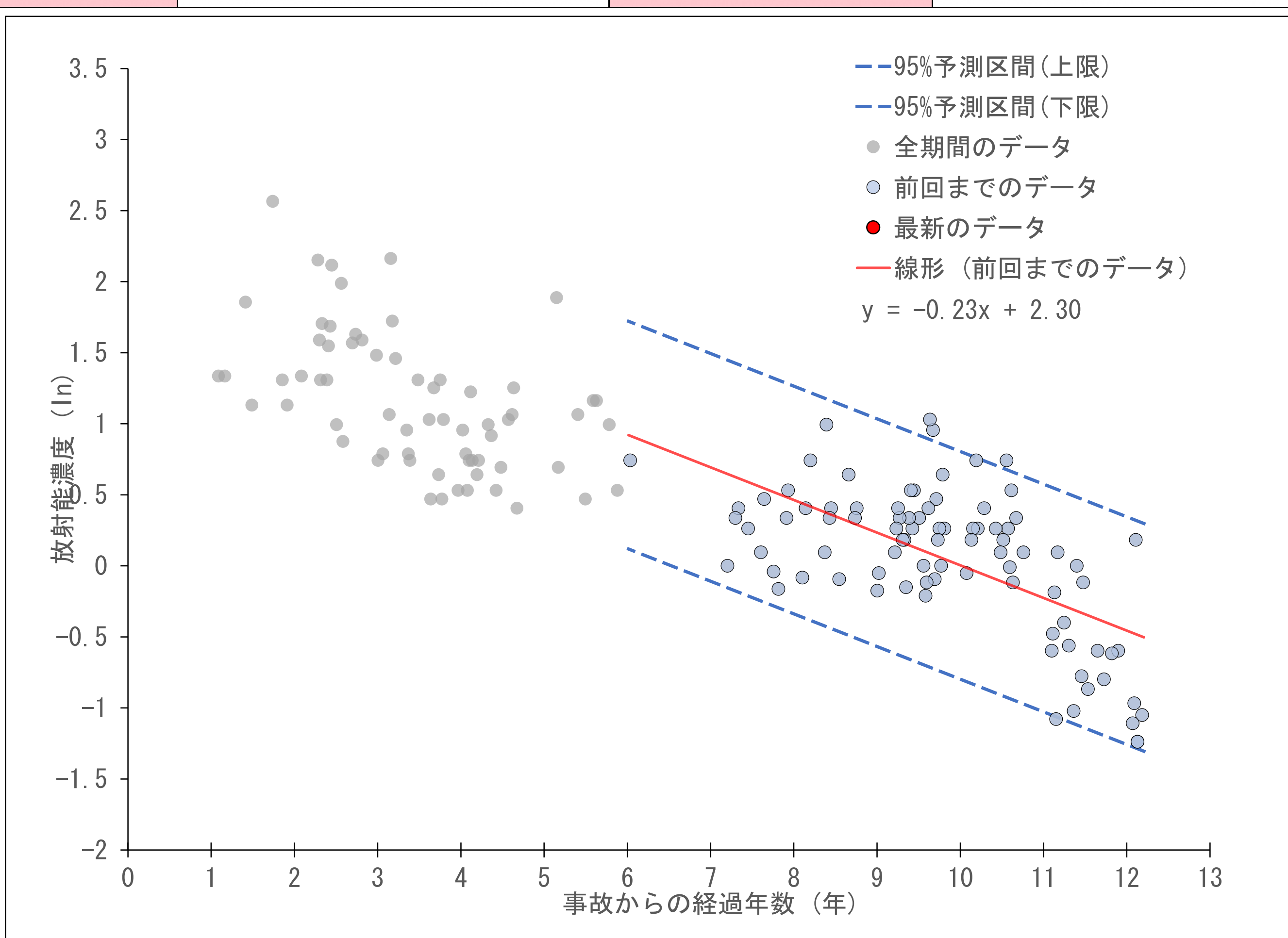
## 各機関のデータの取りまとめと解析

- 既存のモニタリングデータから、95%の信頼区間、予測区間を計算し、その範囲外の値を過去の傾向と異なる数値として注視していきます
- これらの解析結果は、報告レベルに応じて対応していきます

## ● 報告レベルの考え方



採取ポイント	T-1_OL	核種	H-3
試料採取地点名		1F 5~6号機排水口北側	
採取深度	表層(海面~2m程度)	分析頻度	1回/週
検出下限値(Bq/L)	4×10 <sup>-1</sup>	分析実施機関	東京電力ホールディングス株式会社
緯度	37.43111111	経度	141.0344444
地域	近傍海域(福島県)	1Fからの距離(km)	1.1
【最新】試料採取日	2023/06/05	【最新】放射能濃度(Bq/L)	ND



(7) 判定	結果	判定
● 95%予測区間上限は超えたか。	結果 ⇒	NO
● 調査レベルを超えたか。(発電所から3km以内は350Bq/L、それ以外については20Bq/L)	結果 ⇒	NO
● 近傍採取ポイント(5地点)も前回より上がったか。	結果 ⇒	NO
	判定	報告レベル4

原子力機構では、トリチウム濃度のみではなく、原子力規制委員会・水産庁・環境省・福島県・東京電力の各機関が公表する**すべての核種に対して、統一したフォーマットに変更し、情報を一元化し、報告する取り組みを進めています**